



合瀬 宏毅
おおせ ひろき
日本放送協会
解説委員室 解説主幹

伝統食を通じて 地域独特の歴史や文化を感じたい

スイスのチーズやフランスのワインをはじめ、世界で「本物」や「一流」と呼ばれる食品の背景には、かならずといついいほど豊かな自然や長い時間をかけて蓄積された技術、そしてなにより味に対して厳しい消費者がいます。私が伝統食品を食べるのは、そうしたその地域独特の歴史や文化を感じたいためでもあります。食べ物に物語が求められているからこそ、「本場の本物」を大切にしたいと思っています。

◆ ◆ ◆
1959（昭和34）年、佐賀県生まれ。
1981（昭和56）年、日本放送協会（NHK）入局。鹿児島、番組制作局、名古屋などで勤務。「BS23 経済最前線」なるほど経済「土曜オアシス」などのプロデューサーを経て2000（平成12）年より解説委員。「食料・第一次産業」を中心とする経済問題担当。「農政ジャーナリストの会」会長も務める。



加藤 寛昭
かとう ひろあき
食と農研究所
代表

ブランド化による伝統技術の継承と 地域産業の活性化を期待

飽食の時代にあり料理に手間のかからぬい、しかもある程度味も楽しめる現代の食品が主流のなかにあつて、原料と製法にこだわりつづける伝統食品は地域の食文化そのものです。地域の伝統食品は、人から人へと伝承される固有技術と微生物の働きや太陽、水、気温、空気といった自然環境に適合した環境で生産されることが多く、まさに循環型社会の現場をみるすることができます。貴重な地域の伝統食品をブランド化することにより、伝統技術の継承と地域産業の活性化に繋がることを期待します。同時に本物とはなにかを提言したいと思っています。

◆ ◆ ◆
中小企業診断士。1966（昭和41）年、市立高崎経済大学経済学部卒業。ライオンにて食品の営業マネジャー、製品開発（プロダクトマネジャー）を経て管理部長、食材販売部長を歴任。53歳で選択定年制にて退社後、電子機器メーカー（工業）が農業に進出するにあたり、新会社にて農産物の流通開発・営業とマーケティングを担当。2002（平成14）年、食と農研究所を創立。食と農、都市と地方、工業と農業の連携が日本の食を守り、農業をまもるとの熱い想いから生産者・団体の経営支援、都市と農村の交流促進、地域特産品の開発や食文化の発見と情報発信などで活動。

審査専門委員会が厳しく審査

「本場の本物」は、研究者、流通関係者、報道関係者などさまざまな業界の目利きが審査に当たっています



永島 敏行
ながしま としゆき
俳優
青空市場 代表取締役

安心安全でおいしいものを 日本中に知ってもらうために

日本各地にはその土地固有の伝統食がある。それは、そこに住む人々が何十年、何百年と試行錯誤を繰り返して、おいしく、またからだにもやさしい食物へ育ててきたものだ。私たちが普段なげなく口にしてきた食品でもある。最近では食の多様化が進み、こうした伝統食の存在が忘れ去られてしまうことも少なくないが、安心安全でとにかくおいしい伝統食をもっと日本中に知ってほしい。「本場の本物」はそんな思いで立ちあげました。

◆ ◆ ◆
1956（昭和31）年、千葉生まれ。専修大学卒。幼い頃から野球に親しんできたスポーツマンであり、農業など活動分野も実に幅広い。それが高じ現在は俳優業のかたわら、農林水産業の広報マンとしての活動や、生産者と消費者を結ぶ青空市場の代表取締役も務める。



向笠 千恵子
むかさ ちえこ
フードジャーナリスト・
食文化研究者・エッセイスト

生産者自身の食への愛情が、 「本物」のおいしさに結びつく

経済性を優先するあまりに、いつの間にか日本が失いかけているもののひとつが、おいしくて安心な食べもの。しかし、食べものづくりに情熱をもち、素材の持ち味を素直に引き出す生産者さえいれば、日本の味覚はずっと守り伝えられると、わたしは信じています。認定審査の場を通じて、みなさまとともに日本の食を考えてまいります。

◆ ◆ ◆
東京・日本橋生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。日本の本物の味、安心できる食べもの、伝統食品づくりの現場を知る第一人者。志をもった生産者、おいしさ、民俗、歴史、器などを多面的にとらえながら、現代の食を綴っている。農林水産省の「食アミニティコンテスト」審査会長。消費生活アドバイザー。俳人協会会員。農と食や生産者と消費者の交流、スローフード運動にも積極的に参加している。著書多数。2011年、「食の街道を行く」平凡社新書でグルメマン世界料理本大賞グランプリを受賞。



小泉 武夫
こいずみ たけお
東京農業大学名誉教授
食文化論者・文筆家

原点を失わない 「つくる心」こそ本物のあかし

「本場の本物」には、つくった人たちの心が宿っています。原点を失わない「つくる心」こそ、本物であることのあかしなのです。

◆ ◆ ◆
1943（昭和18）年、福島県の酒造家に生まれる。現在、東京農業大学名誉教授、鹿児島大学客員教授、全国地産地消推進協議会会長など。農学博士。受賞多数。発酵学・食文化研究の著書多数。テレビや新聞などでも活躍中。



山本 伸司
やまもと のぶじ
バルシステム生活協同組合連合会
理事長

誇るべき地域食品に スポットライトを当てる

日本各地には、伝統的な食文化があり、土地の風土や独自の技術にこだわって長いあいだ守られてきた食品があります。しかし、価格破壊の波や化学調味料の味の氾濫で、残念ながら一部で衰退傾向もみられます。今回「本場の本物」をとおして、あらためてこうした誇るべき地域食品にスポットライトを当てていけるものと張り切っています。私の所属する生協でも地域の特徴ある商品は本当に人気があります。それゆえ、「本場の本物」の認定を受けた方々には、原料や生産へのこだわり、品質管理等、基準の厳しさは守ってもらいたいと考えています。

◆ ◆ ◆
1978（昭和53）年、生協に入協。バルシステム生活協同組合連合会理事長。基本方針は、日本の農業の活性化と食の大切さを普及すること。フードシステム学会理事も務める。